

# 図書館職員のおすすめ本 2015 冬

郡山市図書館では、たくさん本を所蔵しており、その中から図書館職員がみなさんにぜひ読んでほしい本を紹介いたします。

ぜひ、お近くの図書館においでいただき手にとってみてください。



家庭で  
1日15分  
の読書を!

## 児童書（絵本）

本のなまえ	どんな本
『くまのコールテンくん』	おもちゃ売り場で誰にも買ってもらえないコールテンくんは、取れたズボンのボタンを探しにでかけますが……。  ドン=フリーマン/作 まつおか きょうこ/訳 偕成社
『しろくまちゃんのほっとけーき』	しろくまちゃんがホットケーキを作ります。 作る楽しさ、食べるうれしさがあふれるロングセラー絵本です。  わかやま けん/絵 森 比左志/文 わだ よしおみ/文 こぐま社
『十二支のはじまり』	昔々、ある年の暮れ。 神様が、動物たちを集めてお触れをだしました。 十二支がどのように決まったかが楽しくわかる昔話。  岩崎 京子/文 二俣 英五郎/画 教育画劇
『だいくとおにろく』	川に橋をかけてほしいと頼まれ、引き受けた大工。 でも、その川はとても流れが速いのです。 心配になって川を見に行った大工の前に、なんと大きな鬼が現れて……。  松居 直/再話 赤羽 末吉/画 福音館書店
『てぶくろ』	森に落ちていた手袋。 ネズミが見つけて中にもぐりこむと、 カエルやウサギ達がどんどん入ってきて……。  エウゲーニー・M・ラチョフ/絵 うちだ りさこ/訳 福音館書店

題名	どんな本
『デービット・アトキンソン新・観光立国論』	<p>20年以上日本に住み、長年アナリストとして活動し現在は文化財の補修を手掛ける会社の経営者である「日本人より日本人らしい」著者が今後の人口減社会において、GDPを増加させていくのには「観光立国」化が必要と訴えます。</p> <p>様々なデータから日本の「観光立国」化について考察することによって、「観光大国」化の可能性についても説明しています。今後の日本の産業構造について考えさせられる一冊です。</p> <p style="text-align: right;">デービッド・アトキンソン/著 東洋経済新報社</p>
『震える牛』	<p>社会派ミステリー小説。2年前の殺人事件を追う刑事は、犯人を追ううち、大手ショッピングセンターの地方進出、それに伴う地元商店街の苦境など、日本の構造変化と食の安全が事件に関連していることに気付く。いろいろ考えさせられることが多い作品。タイトルにもなっているBSEと食の安全についての問題が強烈に印象に残る。2012年刊。</p> <p style="text-align: right;">相場 英雄/著 小学館</p>
『千住家の教育白書』	<p>有名な千住家の三兄弟。画家の博、作曲家の明、バイオリニストの真理子。どんな環境で育ち、どんな教育を受けて成長したのか興味をそそる一冊です。個性を大切にしながらもそこには自由がある。常に子供達に寄り添い、同じ視線に立ち、喜びも悲しみも一緒に分かち合える家族。</p> <p>教育や介護を通しての家族のあり方や心の豊かさとは何かを教えてください。そんな大切な何かを気づかせてくれる千住家の記録です。</p> <p style="text-align: right;">千住 文子/著 時事通信社</p>
『福島原風景を歩く』	<p>かつて大いに栄えた産業の姿や仕事の励みとなった民謡が描く風景、あるいは日頃の疲れを癒した温泉場の風景…。</p> <p>心の遺産ともいべき福島原風景を散歩し書き留めた一冊です。</p> <p style="text-align: right;">高橋 貞夫/著 歴史春秋出版</p>
『風が強く吹いている』	<p>陸上経験者は二人のみ、他は素人同然の大学生たちが箱根駅伝を目指し、走りきるまでの物語です。十人は同じボロアパートに住み、それぞれの事情を抱えながらも過酷なトレーニングを積み、成長していきます。笑いもあり、箱根駅伝についても知ることができます。自分の運動音痴を忘れて走りたくくなるような爽快なスポーツ青春小説です。</p> <p style="text-align: right;">三浦 しをん/著 新潮社</p>